

社会保障審議会生活困窮者自立支援 及び生活保護部会（第17回）	
------------------------------------	--

令和4年7月29日

資料6

第17回社会保障審議会生活困窮者自立支援 及び生活保護部会

子どもの貧困への対応について

2022年7月29日
認定NPO法人キッズドア
理事長渡辺由美子

わたしたちキッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの教育支援に特化した活動を展開しています。

団体概要

認定NPO法人キッズドア
<http://www.kidsdoor.net>



理事長 渡辺由美子 プロフィール

2007年任意団体キッズドアを立ち上げる。
2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。
内閣府子どもの貧困対策有識者会議構成員
内閣府子どもの未来応援国民運動発起人
厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会副幹事
著書：子どもの貧困 未来へつなぐためにできること
(水曜社/2018年5月)





コロナ禍に開始した困窮子育て家庭への支援 キッズドア ファミリーサポート事業

安定した収入を得るために

- わたしみらいプロジェクト
- MOS・コン検受験サポート
- Adobe共同プロジェクト

就労支援 合計**523名**

生活の基盤となる物資

- 夏のフードデリバリープロジェクト
- 年末年始フードデリバリープロジェクト
- PCとWi-Fi貸与
- 年末年始プレゼントプロジェクト

食料支援 全**7回** 約**13,000世帯**

物資支援 全**4回** 約**4,000世帯**

就労
支援

物資
支援

情報
支援

最新情報配信・知識向上のセミナー

- 金融教育セミナー
- 子どものメンタルケアセミナー
- お仕事セミナー
- 奨学金・給付金に関する情報配信

情報配信 約**20回**
セミナー・イベント **21回**
延べ約**1,000名**参加



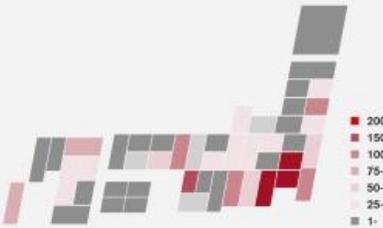


キッズドア ファミリーサポート

コロナによって困難な状況に陥ったご家庭に、
支援を通じて希望を届ける

- 就業支援
- 情報支援
- 物資支援
- アドボカシー

登録者の全国分布

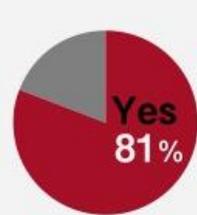


ファミリーサポート登録者推移



3,516人
2021/12時点

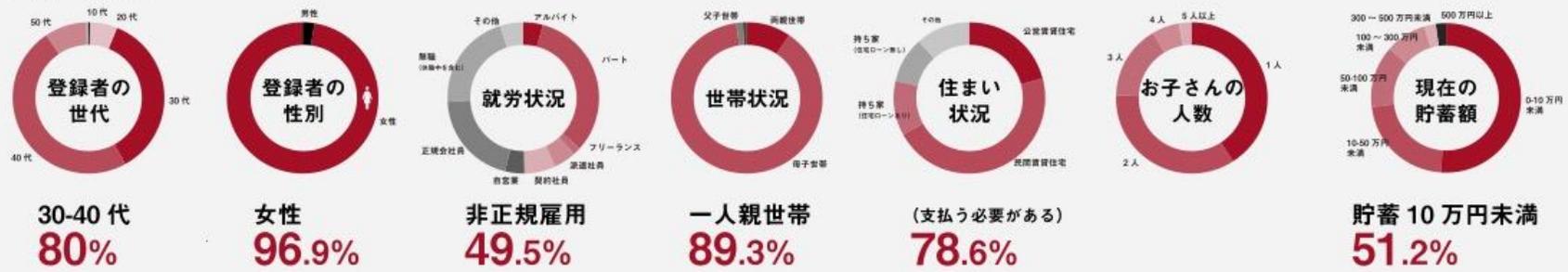
コロナの影響はありましたか



- 収入が減った
- 労働時間が減った
- 養育費がストップした
- 失業した
- 派遣切りにあった
- 子どもの学校が休校になった
- 食費、光熱費の増加
- 就職できない
- 転職がうまくいかなかった
- 休業した
- ストレスが増えた



登録者属性



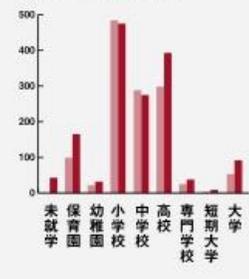
世帯収入 (行政支援などを含む)



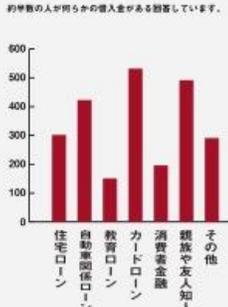
本人の就労収入 (手取り)



お子さんの所属する学校 (1番上の子)



借り入れについて

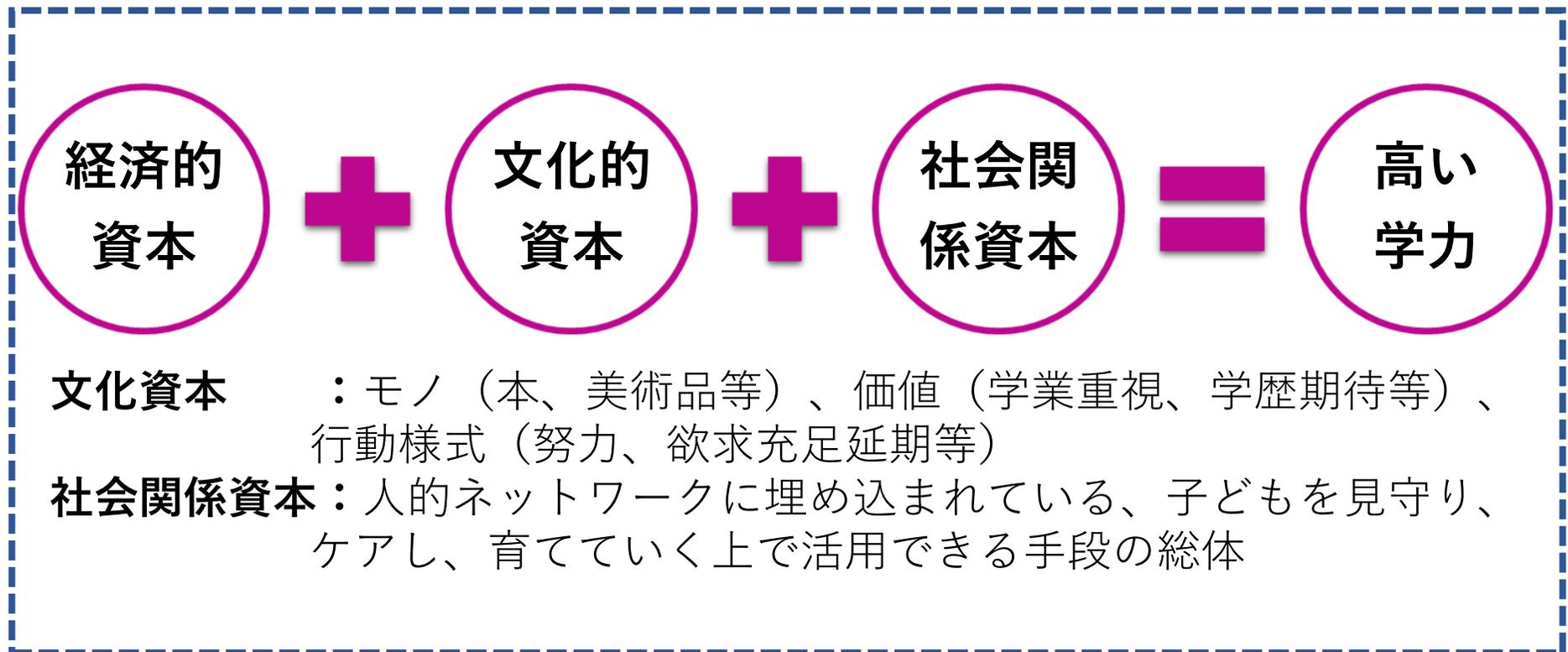


いいえ



学習支援・生活支援事業の成果 保護者支援と関係機関との連携について

経済的資本（学習支援や生活支援）に加えて、**文化的資本**、**社会的資本**を居場所で**充足**することで子どもの健全な成長・学力向上につながる



学習支援・生活支援事業を通じての保護者との関係づくり と保護者支援



基本的には、学習会や居場所参加の際に三者面談を実施

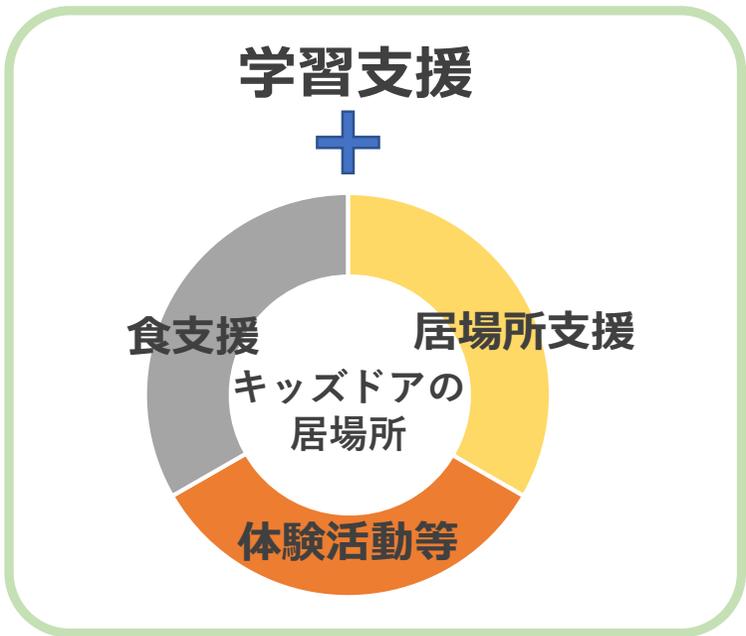
キッズドアファミリーサポートへの登録を案内し、食料支援、情報支援、奨学金情報などを提供

企業からの支援による食料や文房具、食事券、イベントなどの提供

保護者からの信頼を得ることで、キッズドアスタッフが相談相手に例) 教育資金が不安
一奨学金や福祉貸付等の案内を子どもの発達や不登校、家出等の相談も

学習支援・生活支援事業例 (足立区生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業)

家庭に安心して勉強できるスペースがない、ひとり親家庭で親が仕事のため、夜間及び放課後は子どもだけで過ごしている等の中学生、高校生、高校中退・高校未進学者に対し、学習支援に加え、以下の支援を提供



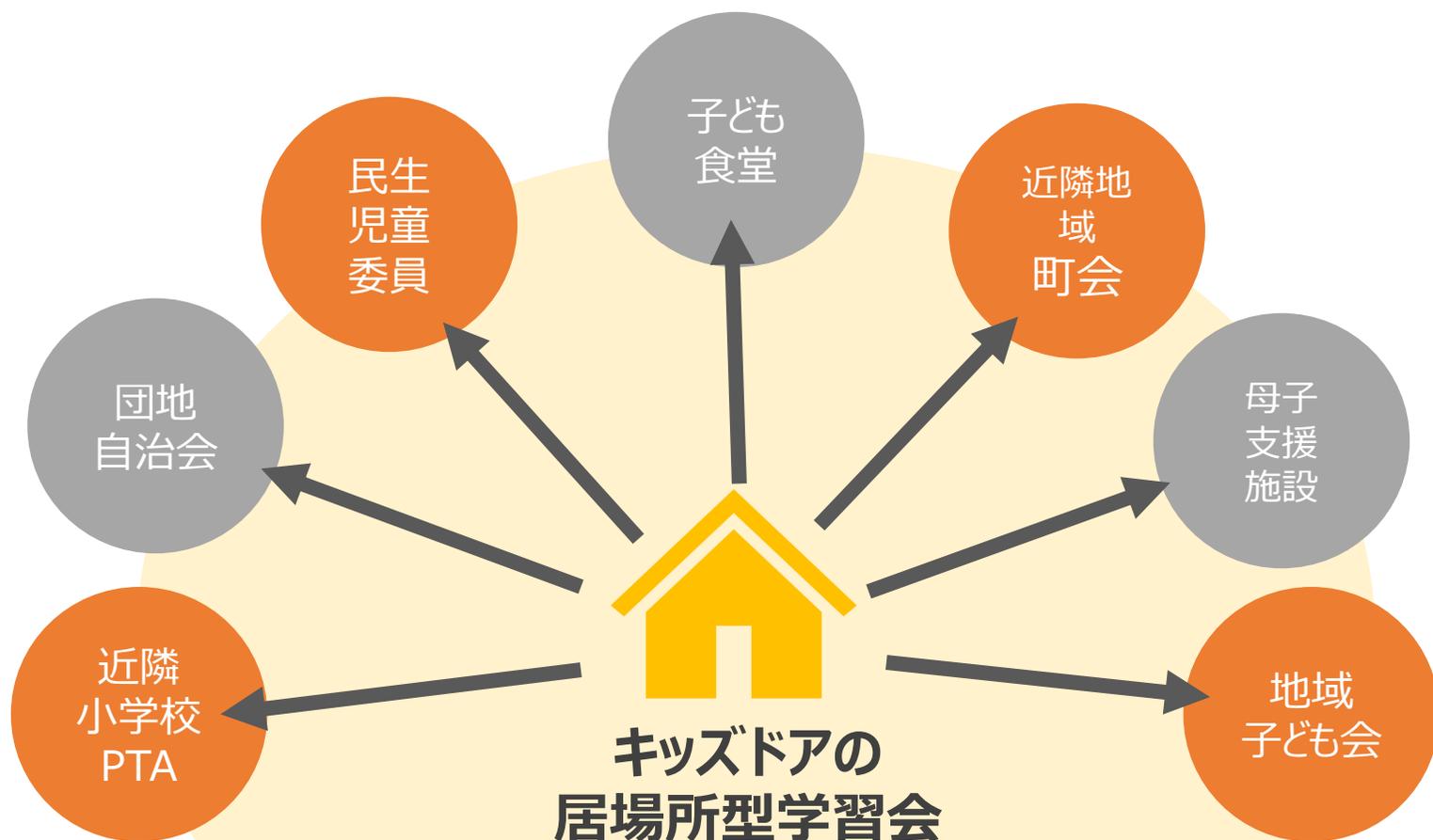
様々な体験活動を居場所内・外で実施することで、不足している文化的資本や社会関係資本を蓄積することを重視



地域との協力関係の構築

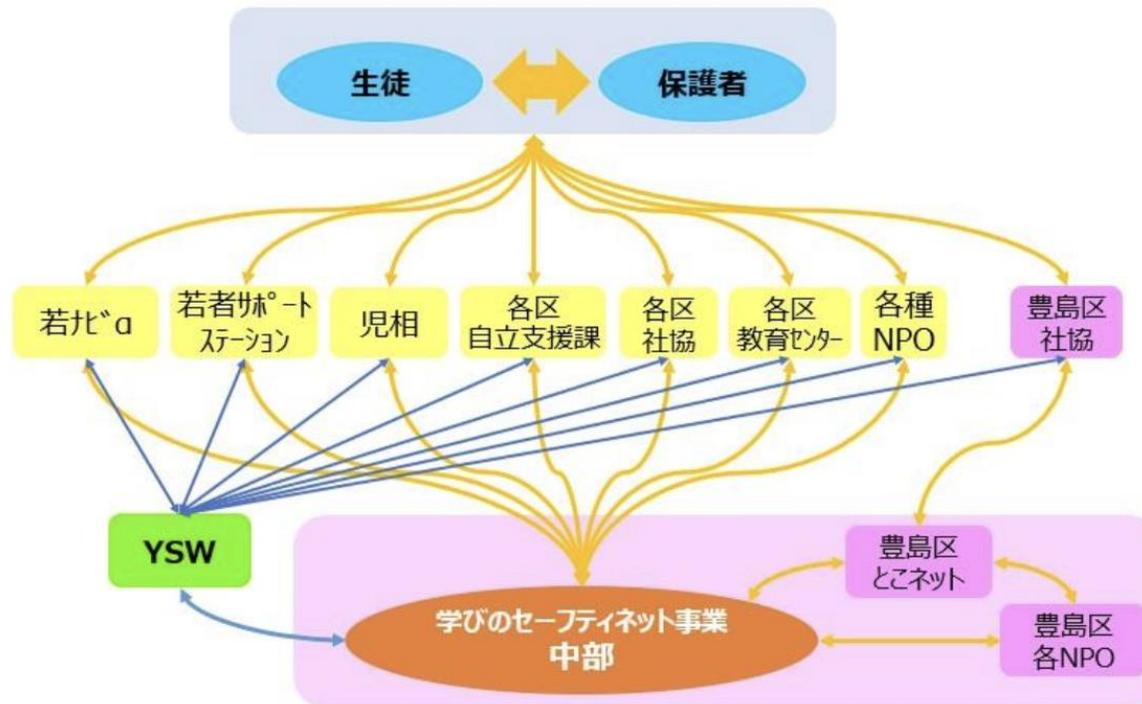
「親の自己責任論」による偏見がオープン当初はあったが、地域の関係者のみなさんが「居場所型学習会」と活動を通して関わることで偏見が払拭されました。

「キッズリビング」に来ている子どもたちは、何も特別な子どもではなくいい子ばかりだねというお言葉をいただくようになりました。



関係機関との連携

より多くの支援が必要な生徒・家庭をつなぐ、地域連携



例：東京都学びのセーフティネット（学習支援・居場所づくり）提案書より

<行政との連携例>

- 足立区：毎月定例的に困難ケースを上げて、SSW連絡会を実施
- 東京都学び直し事業‘ケースに応じて、ケース会議を招集
- 中央区：個別案件ごとにご相談、支援体制づくりが必要な子がでてきた場合は会議体を設けて対応検討、見守り など

高校生世代の支援について

私たちが現場を運営する中での課題の発見

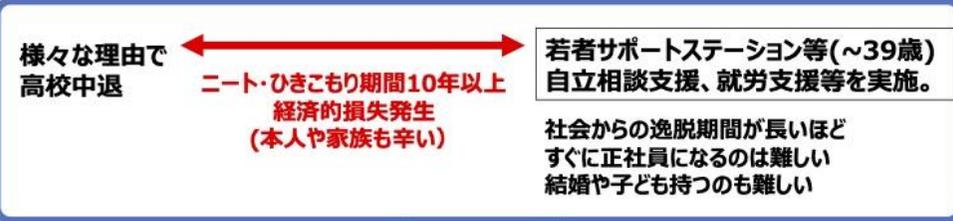
低所得家庭の中学生に学習支援を行い高校進学させても、どうしても中退してしまう生徒がいる。

- ・ 高校生活にかかる費用を自分で稼ぐためにブラックアルバイトで遅刻欠席
- ・ 通学定期が買えないので学校に行けない
- ・ 学業不振でも塾等に通えないため留年→退学
- ・ 経済的理由で部活ができない、友達付き合いができないため孤立して退学等

高校中退は、**怠け者の自己責任ではなく、社会的歪みに陥った結果**（困窮家庭では解決できない）

2022©NPOKidsDoor

現状の支援ー 若者サポートステーション等



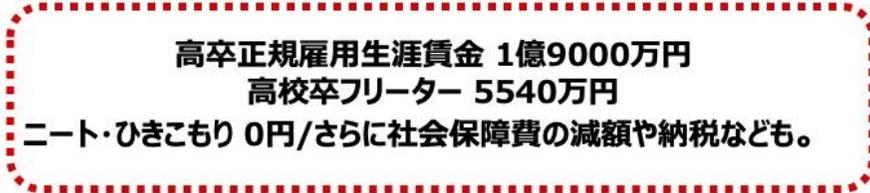
社会的孤立の期間が長いために自立のためには大変な労力とコストと期間（1年以上の支援が必要なケースも）

- ・ 高校を中退した15～20歳の子どもに就労支援は厳しい。学力やソーシャルスキルに課題がある子どもも多い。
- ・ **学び直しの場を用意して「高校卒業」の資格をとり、オントラックにのせる支援が必要**

2022©NPOKidsDoor

高校中退の経済損失試算

高校中退53000人/年
高卒資格がないため正社員になるのはむずかしい。
非正規雇用やニート・ひきこもり等で社会から孤立しがち。



高校中退を減らし正規雇用につなげれば莫大な経済効果
1億3500万円+a/人（1億9000万円-5500万円）

5万人の中退予防で6.7兆円+a

2022©NPOKidsDoor

貧困の連鎖を断ち切るためには 高校生世代を支えることが重要

- ・ 学業不振等で高校中退しそうな生徒の無料学習支援 → **高校中退を予防する支援**
- ・ 学業不振等で高校中退した生徒の高卒認定資格取得のための無料学習支援



早期の支援で、社会的孤立期間をなくし、経済的損失と福祉支援を最小限にできる。

2022©NPOKidsDoor

2022年度キッズドアが行っている高校生世代支援事業一覧

		事業名	対象生徒
自主事業	港区、中央区、文京区、オンライン	キッズドア学園高等部	高校生～浪人生
自主事業	中央区	キッズドア学園 医療コース	高校生～浪人生
自主事業	中央区、足立区、港区、オンライン	English Drive	中学1年生～高校3年生
自主事業	港区	ラーニングラボみなど	中学生～高校3年生
自主事業	足立区	外国にルーツをもつ子どもの居場所学習支援	外国にルーツをもつ小学生～高校生
行政委託事業	品川区	品川区生活困窮者学習支援事業委託	品川区在住の進路の決まっている高校生
	品川区	品川区ひとり親家庭学習支援事業委託	品川区在住のひとり親家庭の小学生5年～高校3年
	目黒区	子どもの学習・生活支援事業	目黒区在住の生活保護、生活困窮者世帯の中学生、高校生
	足立区	生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業（区西部地域） 生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業（区東部地域） 外国をルーツに持つ児童生徒等に対する学習支援事業	足立区在住の生活保護受給世帯・ひとり親家庭・就学援助世帯の中1～高3（高校生は修了生のみ）
			足立区在住の生活保護受給世帯・ひとり親家庭・就学援助世帯の中1～高3（高校生は修了生のみ）
			足立区在住の生活保護受給世帯・就学援助・非課税世帯の小1～高3、高校未進学者及び高校中退後未進学者等の青少年
	江戸川区	共育プラザ中央	不登校の小学生～高校生 一般利用の中高校生
	東京都(東部)	学びのセーフティネット事業（リライン）	都立高校生徒
	渋谷区	若者サポート事業	渋谷区在住在学の中学校卒業してから概ね18歳まで
	東京都（中部）	学びのセーフティネット（学習支援・居場所づくり）事業(リホップ)	都立高校生徒
	板橋区	板橋区中高生勉強会事業	板橋区在学在住の中学1年生～高校3年生
	文京区	文京区高校生世代等学習支援事業業務委託（文京区）	文京区在住の高校生世代等（受給世帯対象、大学進学等を目指す概ね20歳までの高校生世代）
	中央区	中央区学習支援事業	中央区内修学援助（生活保護を含む）、児童扶養手当受給世帯の高校生世代（未進学、中途退学を含む）
草加市（埼玉県）	草加市子どもの学習支援事業	草加市内在住の生活保護受給世帯もしくは生活困窮者自立支援事業利用世帯の小学生、中学生及び高校生	
東北	仙台市	学習支援事業・居場所事業	経済的事情のある高校生
			経済的事情のある中高校生
			経済的事情のある中学3年生～高校3年生
南三陸町（宮城県）	志翔学舎	志津川高校に在籍している生徒	16

東京都内の高校生向け支援事業をネットワーク

板橋区学習教室
(高校生支援)

①足立区居場所型学習会 中高校生支援
(自習・体験・相談・後追い調査)

東京都学びのセーフ
ティネット事業

②東京都学びのセーフティネット
事業(足立区リライン)

文京区高校生支援事業
※2022年度から

江戸川区中高生相談室
さくらぼ

渋谷区若者サポート事
業※2022年度から

都立一橋高等学校
(通信制アウトリーチ)

LLみなと
(居場所支援・自習支援)



高校生支援ネットワーク

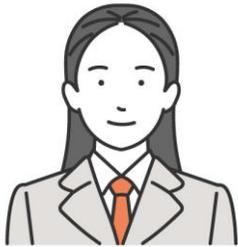
どこでも学習のための通所ができます!



事例 1：高校卒業後の就職事例



中学生からキッズドアの居場所を利用
 工業高校進学後も居場所に定期的に通う。
 高校3年時には居場所の中学生向け体験学習の添乗にボランティアとして参加。
 高校卒業後は、大手企業に就職。
 現在は、日曜日などに居場所にボランティアとして参加してくれる。



中学生からキッズドアの居場所を利用
 中学では不登校。高校は都内定時単位制の高校に進学。居場所利用を継続。
 高校1年時は学校に慣れず、1単位も取れなかったが、居場所職員が励まし続けることで、中退せずに、規定の4年で卒業。
 老舗飲食店に就職。



中学生からキッズドアの居場所を利用
 工業高校進学後も居場所に定期的に通う。アルバイトで後輩に差し入れを持ってきてくれるなど、リーダーシップを発揮。
 高校卒業後は、大手企業に就職。

工業高校は、専門科目の学習が難しく、居場所で勉強をサポートすることで、成績優秀者となり、中退予防や良い就職につながった。商業高校なども簿記の資格を取れないと進級や卒業ができないなど、学業面のサポートは重要。

事例2：高校生向け広域支援-キッズドア学園 医療コース

■内容

医師、看護師。薬剤師など、困窮家庭の高校生・浪人生を対象にオンライン（定員50名）、教室（東京、定員20名）の学習支援・情報支援・生活支援・経済的支援などを実施

■期間

期間：2021年6月6日～2022年3月31日

実施日時

日曜日：17:30～20:30

月・水・金曜日：17:00～20:30

土曜日：13:00～16:00

■実施場所

自習室：キッズドア・ラーニングラボ東京

東京都中央区新川2-1-11八重洲第一パークビル7階

オンライン：ZOOM

■参加生徒数

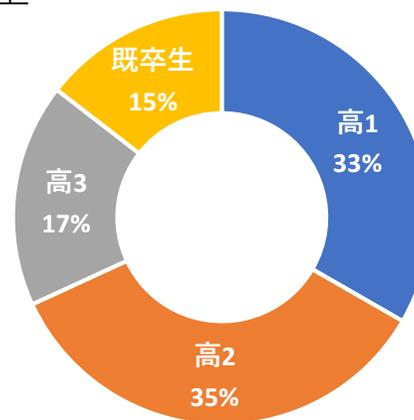
2021年度末 69名（2022年3月31日現在）

参考：2022年度初め 61名（2022年4月1日現在）

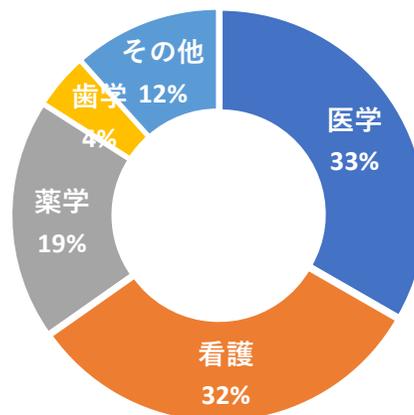
■スポンサー

湘南美容外科クリニック・SBCメディカルグループ

学年



志望学部



◆地域別	
北海道・東北	
北海道	5
青森	1
北陸	
富山	1
福井	1
関東	
群馬	1
埼玉	5
神奈川	1
東京	27
茨城	1
中部	
長野	2
静岡	1
愛知	2
近畿	
兵庫	1
大阪	7
奈良	1
岐阜	1
京都	4
山陰・山陽・四国	
広島	1
岡山	1
愛媛	2
九州・沖縄	
福岡	1
熊本	2
宮崎	1
沖縄	3
総計	73

サポート内容

■学習支援

ボランティアによる学習指導、学習計画作成、志望校選び等のサポート、オンライン生徒は月1回のスタッフ面談による学習方法等のアドバイス
 現職医師、看護師等からのキャリアトーク等

■情報支援

奨学金セミナーの開催、LINEによる定期的な情報提供（キッズドア高校生情報室）など

■生活支援

食事提供（教室）、キッズドアファミリーサポートと提供した食料支援など
 受験時の面接用スーツ等の貸し出しなど

■経済的支援

参考書や模試代の購入費補助、受験料補助

多様で専門的な支援が必要
 基礎自治体での実施は難しい

広域になることで、周囲に知られる心配なども薄らぐ
 ただし、困窮家庭への理解がある事業者が行うことは
 適切な支援やモチベーション維持に重要

■ボランティア

属性	人数
医学部生	2
看護学部生	3
その他学生	4
社会人	9
合計	18 ₂₀



■合格者の声

○僕は貧乏な中で育ちましたが、その中でも見てくださる方々がいて、応援して下さる方々がいるということが本当に嬉しかったです。また、私学を受ける機会を与えて頂いて、医者として研究に携わる可能性を広げてくださってありがとうございます。これから医療に従事する者として、精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。（医学部進学）

○湘南美容クリニックさまのご支援のおかげで、参考書購入や模試の受験、複数の医学部の受験が可能になりました。それらによって、成績向上・安定に繋がり、複数の医大に合格することができました。今後は何らかの形で恩返しすることが出来ると思います。本当にありがとうございました。（医学部進学）

■2021年度合格実績

学校名	学部	学科	備考
千葉大学	医学部	医学科	
慈恵医科大学	医学部	医学科	
東京医科大学	医学部	医学科	特待生
防衛医科大学	医学部	医学科	
国際医療福祉大学	医学部	医学科	特待生
日本医科大学	医学部	医学科	
広島大学	歯学部	歯学科	
神奈川歯科大学	歯学部	歯学科	
明海大学	歯学部	歯学科	
長野県看護大学	看護学部	看護学科	
横須賀看護専門学校	看護学部	看護学科	
東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校	看護学部	看護学科	
長崎国際大学	薬学部		
東京農業大学	応用生物科学部	栄養科学科	
東京リゾート&スポーツ専門学校	アスレティックトレーナー科		特待生

生活保護家庭へのアウトリーチ事業について

埼玉県草加市 草加市子どもの学習支援事業 例

<対象> 草加市内在住の生活保護受給世帯もしくは生活困窮者自立支援事業利用世帯の小学生、中学生及び高校生

<事業内容>

中学生： 学習教室 毎週水・金曜日

高校生： 学習教室 毎週木曜日

小学生： 月1回希望する日程で家庭訪問による学習支援
月1回市内会場での学習支援



目次

- はじめに... 3
- 学習支援編... 4
 - 学習支援にあたっての心得... 5
 - 小学生の学習支援のポイント... 6-7
 - 音読の大切さ... 8
 - こんなときどうする学習支援... 9
- 学習障害がある子どもとは... 10
- 学習障害がある子どもの支援のコツ... 11
- 学習を進めるうえでの留意点... 12
- 家庭支援編 (小・中・高) 心得... 13
- アセスメントシート... 15
- 世帯との連絡報告書... 16
- 家庭支援の心得... 17
- ジェノグラムの書き方... 18
- エコマップの書き方... 19
- エコマップ解説... 20
- 家庭支援体制... 21

はじめに (小学生学習支援と家庭支援事業概要)

学習支援	対象：小学生 利用者の希望日に、 月1回 2時間程度 希望する科目 1,2年は国語、算数 3-6年は4教科	①生活スケジュール作成 ②読書習慣 ③宿題が自分でできるなどの自主学習習慣。
家庭支援	条件：月1回程度 (必要に応じて市職員 の同行あり) 個別相談	家庭の抱える問題を把握する。 必要な情報は市と共有する。必要に応じて関係機関と連携する。
その他	イベントの開催	保護者向け 小・中・高生向け

※スタッフのタイムスケジュールは別紙スタッフマニュアル参照

学習支援編

初回支援日

- 10分前に到着して自己紹介をします。
- 生徒の学習状況や保護者の意向を確認します。(学力チェックしながら支援しましょう。)
- 休憩時には、少しリラックスした会話を交わし、生徒の性格や好みを把握しましょう。
- 最後は無理のない範囲で宿題を出しましょう。時間があれば勉強の仕方などをアドバイスしてあげてください。
- 保護者に支援内容等を報告し、次回支援日時を確認して下さい。



生活保護家庭等へのアウトリーチの成果と課題

月1回希望する日程で家庭訪問による学習支援（定員60名）

対象：小学生 および 不登校など課題重複で学習教室に通うことが難しい中学生

成果：

- 家庭訪問をすることで、世帯の状況や家族との関係を把握することができる。何かあれば、すぐに行政担当者に連絡し、早期対応が可能
- スタッフと児童の間に信頼関係が構築され、その後月1回の学習教室へ誘導する。中学、高校も継続的な支援が可能
- 行政職員ではなく、NPOの学習支援スタッフということで、保護者が安心して話をしてくれる。

課題：

- 家庭状況が複雑だったり、学習障害、海外ルーツのご家庭など課題が重複している場合もあり、高いスキルが求められる。
2年目の本年は、社会福祉士資格を持つ職員が専任で当たっている（学習支援アルバイト等での対応が困難）
- それに伴い費用が不足。ニーズは高いが、職員を増やすことが難しい状況。

まとめ

まとめ① 子どもの学習支援・生活支援事業の強化

- **子どもの学習支援・生活支援事業の補助率の向上 1/2 から2/3へ**
 - 学習支援・生活支援事業の実施率は65%前後で高止まり。
 - 効果の高い生活支援事業を実施するためには多くの予算が必要なため、実施したくてもできない状況。

- **高校生世代支援の強化とニーズに合わせた支援メニューの実施**

オンラインなどを活用した広域支援の仕組みづくり

 - 高校生は義務教育ではなく、学校との情報共有も基礎自治体では取りづらくなる中、困った時に相談できる場所が重要
 - 高校中退予防から国公立大学進学まで支援ニーズの幅が広い。特に大学進学支援などは、入試制度が複雑化する中、支援の難易度が高い。オンラインなどを活用した超広域連携などで、地域にしながら、必要で有効な支援を受けられる

- **生活保護家庭へのアウトリーチ事業への予算措置**
 - 生活保護家庭へのアウトリーチは効果が高いが、高いスキルを持った職員の配置が必要。

まとめ② コロナ起因の子どもの貧困対策の必要性

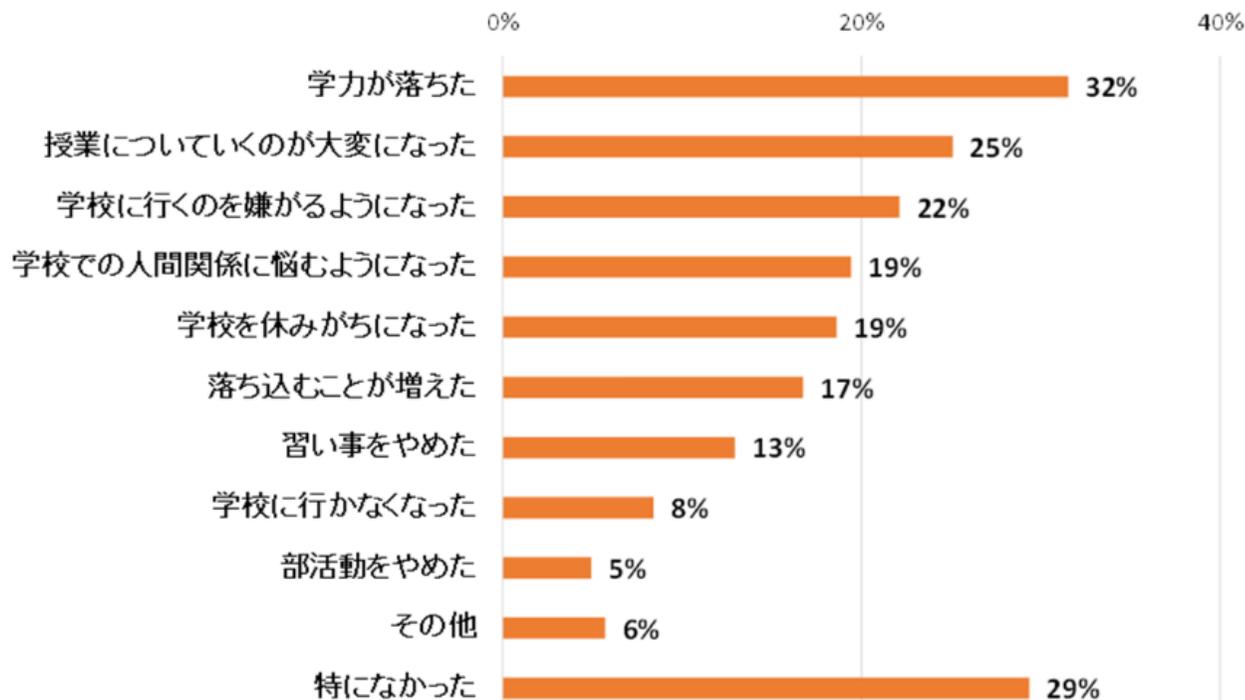
- **子どもの貧困連鎖防止 子どもの学習支援・生活支援事業のコロナ禍集中対応期間の設置（補助率10/10）**
 - コロナが長引く中で困窮家庭の子どもには深刻な影響が出始めている。早期のケアでダメージを最小限にし、貧困の連鎖に陥らせないことが重要。また、ひとり親等の保護者が深刻なメンタル不調で働けないばかりか家事などもできなくなる、コロナ禍の経済的な要因から起こるさまざまな家族の問題などで子どもがヤングケアラーになったり、家庭内で孤立孤独に陥るケースも増える。今後5年間をコロナ禍の子どもケア集中対応期間とし、子どもの学習・生活支援の補助率を10/10に上げ、基礎自治体が早期に十分な支援を行う体制を作ることが有効
- **子育て世帯は緊急小口資金、総合支援資金の償還免除を。せめて住民税非課税から私立高校無償化ラインへ**
 - 住民税非課税ラインでの返還開始は、子どもの食費や教育費に影響し、貧困の連鎖につながる。住民税非課税ラインは子育て世帯にとっては、あまりにも厳しく、影響が長期に及ぶ。子どもが将来の不安なく進学の夢をつなぐためにも、子育て世帯には償還免除が必要

参考

*キッズドアが、2022年7月5～12日に困窮子育て家庭2,634世帯に対して実施したアンケート結果
 (回答数 2,084世帯、回答率79%)

コロナ禍により、7割の子どもに学力の低下や、学校生活の困難等ネガティブな変化があったことが確認された。

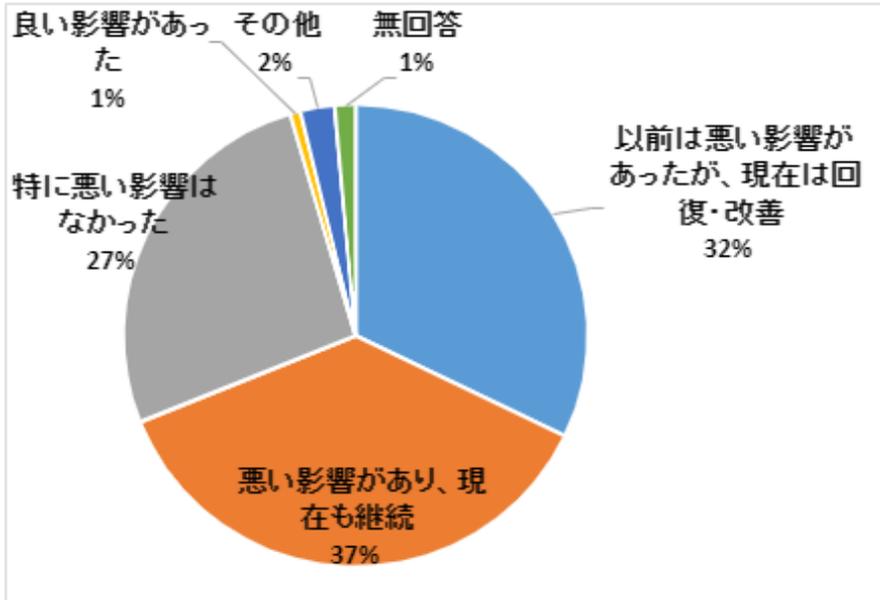
コロナウィルスの蔓延した2020年1月以前と比べてどのようなことがありましたか。
 (現在は改善している場合でも過去の経験を教えてください。)(複数回答可)



参考

Q. お子さんのコロナへの影響についてどう考えますか。
回答者の主観でお答え下さい。

コロナの子どもへの影響は小さい。
4割弱がコロナにより悪い影響があり現在も継続していると回答。



Q. コロナ前と比べて世帯全体の就労収入の変化はありましたか。

コロナの保護者への影響も大きい。
半数が、収入はコロナ前と比べ減少し、今もそのままと回答。

